

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872600255
法人名	有限会社テアサポートかさい
事業所名	第一グループホーム銀の鈴
所在地	兵庫県加西市畑町2289-60
自己評価作成日	令和6年3月8日
評価結果市町村受理日	令和6年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧していただけます。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人OSSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和6年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、以前よりも家族様との外出の頻度は減りましたが、季節を感じて頂けるような場所へ出掛けたり、地域活動として、ご本人の希望によりハイキングや奉仕活動への参加をして頂くような支援を行っています。季節に応じた旬の食材などを使った手作りの食事を皆さんと一緒に食べるなど、家庭的な雰囲気の中で、安心して穏やかに過ごして頂ける様に心がけて支援を行っております。入居者様同士、とても和気あいあいとされており、残存機能を大切にし、皆さんの楽しみを引き出せる様に、職員は入居者一人一人に親身になって向き合い、何か必要な事や心配な事があれば話し合える体制が出来ています。又、職員間で解決策を話し合い解決出来る様に努力が出来ます。又、かかりつけ医の往診や訪問看護師の定期的な健康チェックが行われ、往診以外にも体調不良の時には直ぐに対応し、医療との連携も充実している事により、入居者様やご家族様が安心して過ごして頂ける様な支援を行っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】個室環境ではプライバシーを尊重し自宅の環境を感じさせ暖かな雰囲気を感じ出している。3階の建物だが屋内にエレベーターを設置しスムーズに昇降できる。
 【工夫点】①食事への取り組み。朝夕の献立から調理・盛り付けをすべて手作りで提供している点。②個々のケアの在り方について職員全員で課題検討しその方に合わせたケアを実施している。③地域行事・ハイキングへの参加では、地域の方々との協力を得て相互理解の場となっている。今後も継続的に取りまねる点。④職員のスキルアップに向け取り組みとして月1回勉強会を実施しBCPや医療連携について学びの機会としている点。

V. サービスの成果に関する項目(アウタカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての家族と2/3くらい 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. 毎日増えている 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地域の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての職員が2/3くらい 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての家族等が2/3くらい 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 該当するものに○印 1. ほぼ全ての家族等が2/3くらい 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	第三者評価	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意識をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気大切に「一人一人の思いや気持ちに合わせた支援」の理念を職員間で共有し、その方が必要としている事は何かを、毎日の引継ぎ時や毎月一回行う研修後などに確認し、安心と尊厳のある生活を送って頂けるように気持ちに寄り添った支援を行っている	事業所内の目立つ場所に掲示の経営理念を職員間で共有し、毎日の引継ぎ時や月1回行う研修後に確認し理念を共有して実践に繋げている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事のハイキングや、奉仕活動の草刈りなどに参加させていた。当地域の方とも交流していき、気候の良いときには、子供連の下校時に合わせてハイローンを兼ねた散歩なども行うようにしている	地域行事のハイキングや、奉仕活動の草刈り等に参加し又子供連の下校時に合わせハイローンを兼ねた散歩等を行い事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。
3		○事業所を力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に回して活かしている	介護支援を必要としている認知症の方の相談やご家族からの相談などにも応じ、支援の方法や援助の仕方などの助言をしている。他事業所とも情報交換を行い、入居希望でお急ぎの場合など、他事業所への相談や紹介なども行っている	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度、運営推進会議を開催し、入居者の現状報告や、新しい取り組みや研修などの報告を行なっている。地域とのつながりが持てる様に積極的に相談をさせて頂いて運営推進会議のメンバーの方の意見を聞き参考にしている。下校時のハイローンを兼ねた散歩を取り入れる事も運営推進会議で頂いたアドバイスであり、貴重な意見を伺いながらサービスの向上に活かしている	二か月毎に開催の運営推進会議では入居者の評価への取り組み状況や研修などの報告を行い地域とのつながりが持てる様に積極的に相談をさせて頂き又会議参加メンバーの意見を聞き参考にしこれらの意見をサービス向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで事業所の実情や取組みを伝えるとともに、ケアサービスの不安や悩みがあれば、加西市の長寿介護課に直接出向き、連絡及び相談をする様にしている。銀の鈴でのケアの内容や関わり方を相談し、改善があれば指示をもらいながら、お互いの連携に関する考え方や介護サービスの取り組み方を説明し、何かあった時に協力が得られる様に努力している	ケアサービスの不安や悩みがあれば、加西市の長寿介護課に直接出向き、連絡及び相談をする様にし事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え協力関係を築くように取り組んでいる
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介定基準」における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が行う事により生じるリスクを十分に理解し、玄関の施錠を含めて、拘束の無い介護を行っている。年に二回の研修や話し合いを行い、職員にも身体拘束に対する考え方や銀の鈴の方針を説明し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行う事により生じるリスクを理解し、玄関の施錠を含めて、拘束の無い介護を行っている。年に二回の研修や話し合いを行い、身体拘束に対する考え方や銀の鈴の方針を説明し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を定期的に行う事で、自らの行動や行動を振り返る機会をもち、職員の都合による日々のサービスが不適切なケアとなり虐待に繋がる事を再確認する様にしている。職員間でもお互いの言動などを指摘できる関係を構築し、悩みや懸念が見えた時は、声を掛け合い悩みや思いを聞く様にしている。事業所内で、虐待に繋がる事が無いように話し合える環境を作っている	虐待に関する研修を定期的に行い日々のサービスが不適切なケアとなり虐待に繋がる事を再確認する様にし又利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。

自己評価	項目		外部評価		
	自己	第三者			
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	○利用者様の尊厳ある暮らしが出来るよう、自己決定できる聞き方、認知症となっても職員や地域から他者から人権や財産を侵されない事を職員間で考え日々ケアにあたっている。今は成年後見制度が利用されている方はいないが、家族から相談があれば説明できる様に解りやすい資料等を用意し、玄関先で手に取って頂ける様にしており、いつでも説明できる様に社会福祉協議会とも連携を図っている	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関し、利用者ができる聞き方や認知症となつた場合に職員が支える工夫等を実施し、個々の必要性を関係者と話し合いそれらを活用できるように支援している。	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はやめ改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を導き、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書に沿ってゆつくりと詳しく説明し、疑問点や不安等を確認する事で理解と同意を得ている。又、法改正等については、改正の度に改正事項について説明し同意を得ている。	契約時に、重要事項説明書に沿ってゆつくりと詳しく説明し、疑問点や不安等を確認する事で理解と同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段のご利用者様の何気ない言葉や、ご家族等からの意見や要望については、面会時や、電話時などにお聞きし、「ご意見・ご要望カード」に記入し、その内容を職員間で共有しながら、改善策や対応策を検討し改善する事で、運営に反映している	利用者や家族等意見の反映では利用者様の何気ない言葉や家族等からの意見や要望について面会時や、電話時に聞いた内容をご意見・ご要望カードに記入し職員間で共有し改善に繋げ運営に反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が、介護現場にいる事で、介護職員と密に連携を図れ話をする事が出来る環境にある。その時の職員の意見や提案を反映し、意思の統一や方向性の確認がその時に行い易く、必要に応じて皆の意見をまとめて相談できている	管理者は介護職員と密に連携を図れる環境下において職員の意見や提案を反映し意見や提案等聞く機会を設けこれらをサービス向上に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意欲を持って働けるよう個々の努力や実績を把握し、処遇改善手当の見直しを行つていき、又、労働時間や休日の希望日を聞き、働きやすい環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を受ける機会を毎月1回設け勉強会を行い、現任訓練などで仕事に必要な知識や技術・技能などを育成していく事に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他の事業所とのネットワーク作りが出来ており、定期的に会議を行い意見交換や情報交換を行ったり、合同の研修会をおこなうことでサービスの質の向上を図っている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	これまでの生活の様子を把握するようになり、本人にとつてのサービスは何かをしっかりと見極め、安心して暮らして頂く為の関係作りを努めている		

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に繋ぐ家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをしつかりと聞き、ご本人にとって一番良い環境で暮らせるようにして行くにはどうすれば良いかを共に相談している。又、今までの暮らしや生活歴を細かく知る為、入居される時に事前調査書を用いてご家族に思いや要望を自由に書ける様にしている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今ご本人に必要なサービスは何かを相談の中で見極め、その時々が必要に応じてサービスの提供をしている。他のサービスが必要ない状態になれば他のサービスを利用する事も提案しながら、その方の状態に応じた適切なサービスに結び付けられる様に努めている 音ながらの行事やしきりなど、人生の先輩として助言を頂く事も多くあり、本来持っている力を発揮して頂く場を作るなどし、暮らしを共にする同士の関係性を築けている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居開始時から、ご本人とご家族の関係が適切でないように些細な事でも連絡をし、必要があればご家族にも協力をお願いしている。ご本人にとって一番の暮らしが出来る様に、共に支援を行って頂ける様に心がけている。ご家族に、かかりつけ医以外の病院受診は、緊急時を除き、積極的に支援に関わって頂く事で共に支える関係を築けている			
19		○本人を支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居開始時から、ご本人とご家族の関係が適切でないように些細な事でも連絡をし、必要があればご家族にも協力をお願いしている。ご本人にとって一番の暮らしが出来る様に、共に支援を行って頂ける様に心がけている。ご家族に、かかりつけ医以外の病院受診は、緊急時を除き、積極的に支援に関わって頂く事で共に支える関係を築けている			
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、ご家族との外出はかかりつけ医以外の病院受診のみとさせて頂いており、馴染みの方やご家族との面会は、ホームでバーチャルセッションや時間制限を用いて行って頂いています。ご本人の希望で電話でお話頂いたりして家族関係が途切れない様に工夫して対応している			本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握しその関係を断ち切らないよう支援しています。感染対策を行い20分の面会ができます。家族様と外出や散歩に出かけたのやり取り、いただきます。家族様と電話でのやり取り、他のまた他の施設から面会に来られる方など継続的に支援しています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士が談話を楽しんだり、同じ趣味の方同士が好きなレクリエーションを楽しめる様に支援を行っています。少しご利用者同士の関わりが難しいと判断した時は、席替えを行ったり、上手に関わって頂ける様、支援に努めています			
22		○関係を断ち切らない取組み サービスを利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービスの利用が終了される方でも、必要に応じて相談や提案・近況の報告などを行い、これまでの関係性を継続できる様に努めています			

自己評価	外部評価	
	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<p>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>23 (12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自己評価 実践状況</p> <p>入居時にご本人やご家族よりケアプランをし、生活歴や要望や意向を確認し、ケアに努めている。意向がしつかり伝えられる方には、暮らし方についての思いや意向の変化なども確認をし、つきり意向が伝えられない方に対しては、日常生活の中で少しでも思いを感じ取れるよう務めている</p>	<p>外部評価</p> <p>日々の関わりの中で声を掛け、本人様にとつてどのように暮らす事が最良なのかの視点で取り組んでいる。本人様の言葉にしつらい思いを、日々の行動や表情から読み取り把握し、その情報をもとにミーティングで共有し、また意見を申し合い話し合っている。</p>
<p>24 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>自己評価 実践状況</p> <p>ご本人の思いや今までの生活歴などを聞き、ご本人にとつて一番良い環境で暮らせるようにして行くにはどのような支援が必要かを考えている。入居時に、今までの暮らしや生活歴を細かく知る為に、事前調査書を用いてご家族からも思いや要望を自由に書ける様にしている</p>	<p>外部評価</p> <p>一人ひとりの1日の暮らし方や生活リズムについて理解しご本人の状態を職員全員で確認している。ご本人や家族の思い、意見を日々の関わりの中で聞き取りしながら、利用者主体の計画へと反映している。定期の介護計画の見直しでは、ミーティングに基づき機能状態の変化や食事、栄養に関する点、服薬など個々のケア記録をもとに見直している。</p>
<p>25 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>自己評価 実践状況</p> <p>職員間で情報を共有しながら、心身状態や現状の状態に変化が生じた場合には、ご本人との話や介護職員からの聞き取りをこまめに行い、現状把握に努めている</p>	<p>外部評価</p> <p>一人ひとりの1日の暮らし方や生活リズムについて理解しご本人の状態を職員全員で確認している。ご本人や家族の思い、意見を日々の関わりの中で聞き取りしながら、利用者主体の計画へと反映している。定期の介護計画の見直しでは、ミーティングに基づき機能状態の変化や食事、栄養に関する点、服薬など個々のケア記録をもとに見直している。</p>
<p>26 (13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>自己評価 実践状況</p> <p>毎日のミーティングで意見やアイデアを出し合い、些細な事もご家族に伝えながらモニタリングを行っている。そのモニタリング、ケア記録、職員による聞き取り、ご家族の要望を基に、又、必要に応じて、主治医にも相談をしながら半年毎に介護計画を作成し、それぞれの専門職の方からも意見やアイデアを聞き取り出来る様にし、入居者様ご何かが変化があればその都度修正し、健康に留意している。</p>	<p>外部評価</p> <p>一人ひとりの1日の暮らし方や生活リズムについて理解しご本人の状態を職員全員で確認している。ご本人や家族の思い、意見を日々の関わりの中で聞き取りしながら、利用者主体の計画へと反映している。定期の介護計画の見直しでは、ミーティングに基づき機能状態の変化や食事、栄養に関する点、服薬など個々のケア記録をもとに見直している。</p>
<p>27 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>自己評価 実践状況</p> <p>個別のケア記録をご本人の言動やその時の状況、職員との会話のやり取りなどに視点を当て細かく記入することで誰が見ても分かる記録にし、情報の共有や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>外部評価</p> <p>一人ひとりの1日の暮らし方や生活リズムについて理解しご本人の状態を職員全員で確認している。ご本人や家族の思い、意見を日々の関わりの中で聞き取りしながら、利用者主体の計画へと反映している。定期の介護計画の見直しでは、ミーティングに基づき機能状態の変化や食事、栄養に関する点、服薬など個々のケア記録をもとに見直している。</p>
<p>28 ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>自己評価 実践状況</p> <p>併設している小規模多機能の協力や相談を得ながら、その時に生じるニーズに応じたサービス、又、既存のサービスにとらわれない、今のその方に合ったサービスを提供出来る様に努力している。</p>	<p>外部評価</p> <p>一人ひとりの1日の暮らし方や生活リズムについて理解しご本人の状態を職員全員で確認している。ご本人や家族の思い、意見を日々の関わりの中で聞き取りしながら、利用者主体の計画へと反映している。定期の介護計画の見直しでは、ミーティングに基づき機能状態の変化や食事、栄養に関する点、服薬など個々のケア記録をもとに見直している。</p>
<p>29 ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自己評価 実践状況</p> <p>社会福祉協議会が作成している地域資源マップなどを把握し、自治体や地域の方の理解を得て、地域活動に積極的に参加されたり、外出支援サービス事業の「かたつむり写」を利用して病院受診された方もあり、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している</p>	<p>外部評価</p> <p>一人ひとりの1日の暮らし方や生活リズムについて理解しご本人の状態を職員全員で確認している。ご本人や家族の思い、意見を日々の関わりの中で聞き取りしながら、利用者主体の計画へと反映している。定期の介護計画の見直しでは、ミーティングに基づき機能状態の変化や食事、栄養に関する点、服薬など個々のケア記録をもとに見直している。</p>

自己評価	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が安心して診察が任せられるかかりつけ医や訪問診療による定期的な往診があり、何かあっても直ぐに指示が頂け、近隣の救急病院にも受診できる様に照会して頂ける。体調に不安が早られた時は、その都度医師に連絡をし相談及び適切な医療が受けられる様に支援している。又、結果についてもご家族に連絡し細かに説明と同意を得ている	状況に応じてご本人やご家族の希望する医療機関を受診することが出来る。入居時には今までのかかりつけ医や希望する主治医について話し合い、合意している。現在第13火曜日に往診があり、訪問看護師との連携も整った緊急時には指示を受ける体制が整っている。訪問診療月1～2回水曜日に往診がある		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師による健康チェックを受けている。気になる事や心配な事があれば、事前に訪問看護スタッフと連携をし、訪問時に適切な看護が受けられる様に支援している	入院時には、入院の目的を早く達成してもらえよう話し合い、「入院時連携シート」を医療機関に対し提供している。なるべく混乱が少なくなるよう、日頃の様子や支援方法について伝えられている。スタッフが見舞うようにしている。またカンファレンスに参加し回復状況を確認し連携がなされている		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう利用者が早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院時連携シートを作成し、ホームでの様子やご家族の思いなどを共有し、早期退院の意思をその時に伝えていく。退院時には退院時カンファレンスに参加している。その時に病状の説明や注意する事などを医師から直接確認し、何かあれば相談しやすい関係を構築している。	入院時には、入院の目的を早く達成してもらえよう話し合い、「入院時連携シート」を医療機関に対し提供している。なるべく混乱が少なくなるよう、日頃の様子や支援方法について伝えられている。スタッフが見舞うようにしている。またカンファレンスに参加し回復状況を確認し連携がなされている		
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から、重度化や看取りについての説明を行いご家族の意向や思いなどを丁寧に聞き取りをし、書面に記録として残している。その記録についてもいつでも思いが変れば変更できる事を説明し、その時の状態に応じて再度相談する事としている。又、主治医の先生にもご家族様の思いなどを共有し、チームで支援できる体制作りを取り組む事が出来ている。今年度、一名の方の看取りを、医療機関との連携を含め、ご家族と職員一丸となり取り組む事が出来た。	ご本人やご家族の関心や不安のひとつが、重度化した場合の対応の在り方です。契約時に事業所として対応し得る最大のケアについて確り説明を行ったうえで「重度化した場合の介護(看取り介護)に関わらう指針」へ同意を得ている。医師、訪問看護師と連携し、随時意思確認しながら重度化や看取りを支持している。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として、急変時に対する処置などの研修を行っている。又、コロナ感染症拡大前までは、救命救急士講習を加西消防署職員に派遣を依頼し、人形やADL装置を実際に使用しながら、職員一人一人が緊急時に対応できる実践力を身に付けられる様にしていた。WEB講習を受けるように努力している			
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行い、全職員が訓練を行える様にしている。避難訓練時には近隣の住民にも参加をお願いしていたが、コロナウイルス感染防止の観点からお断り出来ていない。又、定期的な研修を行い、非常災害時の対応やホームの指針、避難路及び連絡網の再確認などを行う事ができ、安全に利用者避難させる事が出来る様に指導している	年2回避難訓練を実施し、全職員が訓練を行える様にしている。コロナ禍で近隣住民の参加はできなかったが最近では定期的な研修を行い、非常災害時の対応やホームの指針、避難路及び連絡網の再確認などを行うような体制を構築している。		

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(18)	IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 一人ひとりの尊重とケアイバビの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやケアイバビを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修に、接遇対策を取り入れ、一人一人の思いに合った支援を心がける事で、人生の先輩と考へ、個人として尊重しケアイバビに配慮した対応をしている	研修計画をもとに年1回ケアイバビ確保に関して研修を行っている。利用者その人らしい尊厳ある姿を大切に高齢者への対応をテーマに研修を実施し研修後は報告書を作成し振り返りを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状況に合わせた対応で、訴えが困難な方でも表情や仕草等によりご本人の希望を受け止め、出来る限り自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由にゆったりと過ごして頂ける様な雰囲気を作り、レクリエーションや活動参加にもご本人の意見を尊重しご希望に沿って支援している			
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	入浴前に好きな服を選んで頂いたり、2か月に一度の美容ケアには、カットやヘアース等ご自分の好みの髪形や、顔剃りなど希望するメニューを選択できる様に工夫している			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように、献立を立てる時にご利用者様の希望を取り入れメニューの参考にしている。季節の行事時の、例えば、重方蒸など下準備からお手伝い頂き、各自、巻いて頂くなどし、季節を楽しんで頂いたり、テーブル拭き・下膳・洗い物等それぞれの能力に応じて出来る事を一緒にして頂けるように努め、旬の食材を活かした手作りの料理を楽しんで頂いている	食事を一日の大切な活動の一つと考え献立作りから調理・盛り付けまですべて事業所で手作りし提供している。また行事食では節分に巻きずしを職員と一緒にみんなで作りました。お正月のおせち料理やクリスマスや宴ではケーキで楽しみました。利用者の個性などを活かしてテーブル拭きや洗い物などで		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は、水分チェック表を作成し水分量を把握している。又、栄養スクリーニングも作成し、アルブミン値や栄養状態も把握しやすい様になっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアを一人一人の、口腔状態や能力に応じて支援している。腐き残しが多いご利用者科に関しては職員が介助し、必要に応じて訪問歯科の先生に助言を頂いている。口腔ケアだけでは清潔が保持できない状態の時は、住診の歯科			

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の、得意な事を把握し、日々の役割に繋げていける様に支援を行っている。又、レクリエーションなどにも皆の事が思い出しせるような工夫をし、楽しかったと思って日々過ごせる様になっている				
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	種やかな季節の時には、希望に応じて近所に散歩に外出したり、ホームの上にある広場にて桜や季節の花を見ながら、コーヒーを飲んだり、木に実っているサクランボを食べたりしながらレクリエーションを楽しんで頂いている。現在は新型コロナ感染拡大防止の観点から家族との外出は受診時とさせて頂いている。地域の方との交流はハイキングなどに参加させて頂いたり、小学生との交流を、第二の施設で楽しんで頂ける様に、支援している	本人様が日常的に外出できるようなまた短時間でも外気にふれる機会を設けられるよう取り組んでいいる。R5.11.12地域の方々の協力を得て地域行事「ハイキング」に参加され事業所の理解や啓発活動に繋がっている。今後も継続する予定です。日々の暮らしでは中庭でお花を見たり、ドライブでお花見にも出かけています。第二グループホームと共に近隣小学生との交流にも参加され積極的に外出支援を進めている。			
50		○お金の所持や使うこととの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者間でのトラブル回避の為、お金の所持は控えて頂いて頂いているが、買い物などの機会があれば個々の状態に応じた支援をしている				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、ホームのコードレス電話を使い、個々の好きな場所にて電話をしたい。年賀状を書いたり頂いたり、手紙を書きたいと言われる方には必要に応じて文通の支援を行っている				
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を	家庭的な居住環境を重視し、四季に応じた鉢植えや生け花を共有の場所に生けたりしている。又、その時の月に合わせた行事をする事により、四季を感して頂ける様心がけている。	共用の空間は家庭的な居住環境を重視し、四季に応じた鉢植えや生け花を共有の場所に生けたりし、又月に合わせた行事等を行い生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるような工夫をしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて、日中過ごされる事が多く、気の合った利用者同士で席次が出来る様に配慮する事により、楽しく談話やレクリエーションを楽しまれている。共有空間の中で一人になれる事は難しい為に、いつでも自由に居室に戻れる様に配慮し、気持ちの良い環境に整えている				
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、大切にされてきた物品や写真を持ち込んで頂くことにより、馴染みのある環境で過ごせ、本人が混乱なく過ごせるように工夫をしている	居室あるいは泊まりの部屋は使い慣れた家具や、大切にされてきた物品や写真を持ち込んで頂き馴染みのある環境で過ごせ本人が混乱なく過ごせるように工夫をしている			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に目印をつけたり、ご自分の部屋である事が分かる様に工夫する事により、ご自分の居室であると認識しやすくなるようにしている。又、安全に自立した生活が出来る様に照明の工夫や危険な物品は片付けることなどをし、安全に自立した生活が送れるように工夫している				